

怪盗と判官 (1955)

メディア 映画

ジャンル 時代劇

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1955/12/07

【解説】

「生きものの記録」の小国英雄によるオリジナル脚本を「いろは囃子」の加戸敏が監督した。1938年の「弥次喜多道中記」のリメイクで、市川雷蔵が遠山の金さんを、勝新太郎が鼠小僧次郎吉をそれぞれ演じた。

有名な怪盗の鼠小僧次郎吉は江戸を追われ東海道を下っていた。旗本の長男である遠山金四郎は弟に家督を譲るため家を出た。二人は箱根山中の茶店で一緒になり、五十三次を旅する弥次郎兵衛と喜多八と笠を取り違えたことから、宿でひとつの部屋に通されてしまった。意気投合した二人は、そのまま一緒に旅をすることに。だが次郎吉を追って、女スリのおれんと目明かしの伝七が近づいていることに、二人はまだ気づいていなかった…。

【クレジット】

監督 加戸敏

製作 酒井箴

企画 浅井昭三郎

脚本 小国英雄 Hideo Oguni

撮影 今井ひろし

美術 菊地修平

音楽 大久保徳二郎

出演 市川雷蔵

勝新太郎

清水谷薫

阿井美千子

長谷川裕見子

堺駿二

益田キートン

市川小太夫